

# FeLV(猫白血病ウイルス)について

## ○「FeLV 感染症」とは？

白血病とは、血液中に白血球が異常に多くなる病気ですが、FeLV が感染すると必ず白血病になるわけではなく、実際には悪性リンパ腫、貧血、免疫不全など他の症状を起こすことが多いです。人の白血病とは異なるため、FeLV が人に感染することはありません。主な感染経路はケンカによる咬傷、交尾、グルーミング(舐め合い)、トイレや食器の共有です。まれに母子感染もします。

## ※感染経路

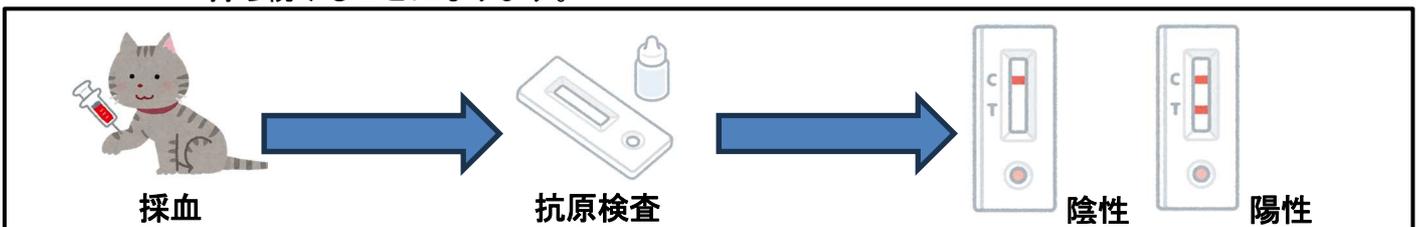


## ○検査方法(簡易検査)

猫から採血して数滴の血液を使用し、検査キットにより10分程度で結果が出ます。

感染してから検査で陽性反応が出るまで約2週間～1ヶ月かかりますので、感染した直後は検査をしても、陽性反応が出ません。抗原を検査しているので、陽性の場合には現在ウイルスに感染しているということです。しかし、自分の免疫力でウイルスを排除できることがあります。離乳期を過ぎてからの感染だと50%、1歳以上だと90%の確率でウイルスは排除されます。排除後に再検査すると陰性になります。陰性にならなかった場合、残念ながら持続感染\*になったということです。

※持続感染：4ヶ月以上ウイルスが体内に残っている状態を言い、ウイルスを排除出来ず、生涯ウイルスをもち続けることとなります。



## ○FeLV 感染症の症状

【初期感染期】ウイルスに感染してから、2～6週目に始まり、1～16週持続します。全身のリンパ節の腫れ、発熱、白血球減少症、血小板減少症、貧血などが見られます。

【持続感染期】3年以内に発症することが多いですが、まれに10年以上発症せずに過ごす場合もあります。リンパ腫や白血病などの血液の腫瘍や、貧血や腎炎、口内炎、流産・死産などの様々な症状を発症します。これらを発症した場合には完治することは難しく、数ヶ月から数年で死に至ることも多いです。なお、ストレスや体調に注意していれば、発症せずに天寿を全うする場合もあります。ただし、感染力のあるウイルスが体内にいるため、他の猫にウイルスを感染させてしまう可能性があります。

## ○FeLV 感染症の治療法

体内からウイルスを完全に排除することは出来ず、完治させるような治療法は確立されていないので、症状を緩和する対症療法になります。

## ○FeLV 感染症の予防法

### ①完全室内飼い

FeLV が陽性である、あるいは陽性の可能性がある猫との接触の機会を無くし、ウイルスに感染する機会を防ぐことが大原則です。また、複数頭飼育する場合には、全頭の検査を行って陰性であることを確認しましょう。もし、陰性の猫と陽性の猫がいる場合には、部屋を分けて飼育しましょう。なお、人がウイルスを運ばないように、感染猫と接触した後や、感染猫の食器やトイレを手入れした後は、必ず石鹸やアルコールで手を洗うことを心がけましょう。

### ②ワクチン接種

FeLV に対するワクチンがあります(4種または5種混合ワクチンに含まれています)。しかし、感染防御効果が完全では無い(感染リスクをゼロには出来ない)、既に感染している場合には、発症を抑えたり進行を止めたりする効果は無いというデメリットがあります。